


IAM MARKET INSIGHT
マーケット・インサイト

2026年6月22日

代表取締役社長 秋野 充成

 いちよしアセットマネジメント**今週のポイント****日経平均株価は先週、7万円の大台を突破**

日経平均株価が7万円の大台を突破しました。4月27日に6万円を突破してから2か月弱での大台替わりです。想定外の急上昇の背景には、2つの要因があります。1つ目は米・イラン交渉がまとまり、停戦が60日延長され、ホルムズ海峡の開放に目途がついたこと。2つ目は、懸念されていたFOMC(米連邦公開市場委員会)を通過したことです。

米国とイランの戦闘終結へ向けた暫定合意は、難題を棚上げにした「絵にかいた餅」に過ぎず、戦争状態が終了したとは考えられません。WTI原油先物価格は下落しましたが、当面は70ドルを下回ることはないと思います。つまり、当面は戦争に左右されずリスクオン(選好)が続くものの供給制約が解消されず、割安な景気敏感株がスッキリと上昇することはないと思われます。

また、FRB(米連邦準備制度理事会)におけるウォーシュ新体制は「タカ派^{※1}」でしたが、マーケットの想定を超えるものではありませんでした。つまり、現状のリスクオンを屈折させることはありません。しかし、FRBが想定する年末の政策金利水準は3.75%であり、1回以上の利上げが前提となりました。利上げ局面でも業績に心配がなく、将来展望が明るいAI(人工知能)・半導体セクターが再注目されることになりました。半導体株の指数とも言える日経平均株価の面目躍如です。日経平均をTOPIX(東証株価指数)で割って算出するNT倍率は19日、17.61倍となりました。

AI・半導体株集中相場が加速、中小型株においても関連銘柄の上昇が目立つ

AI・半導体株集中相場が加速しています。米国株以上に日本株が強く感じるの、所謂「つるはし銘柄^{※2}」が多いこと、そして海外からの循環物色の受け皿になっているためです。12~18日までの上昇率を確認すると、SOX(フィラデルフィア半導体株指数)が+7.25%、日経平均株価が+7.62%、台湾加権指数が+5.19%、韓国総合指数が+11.57%となっています。日経平均株価は韓国総合指数には及びませんが、SOXを凌いでいます。当面は、AI・半導体株集中相場が継続するものと思われます。ただし、関連銘柄のすそ野が広がっていることは間違いなく、中小型株群においてもモメンタム(勢い)が強く、高パフォーマンスを発揮する銘柄が増えています。要注目です。

FOMC後の記者会見でウォーシュ氏はFRBのコミュニケーション改善やバランスシート見直しなどに言及

マーケット波乱にはつながりませんでしたが、ウォーシュ新体制を確認したいと思います。6月のFOMCでは声明文が半減となり(事実のみ記載、予測は排除)、記者会見においてもフォワードガイダンス(先行き指針)は一切なし、政策金利の見通しを示すドット・チャートの公表はありましたが、ウォーシュ議長自身は非公表となりました。

そして、見直し検討5項目として①コミュニケーション、②バランスシート、③既存のデータ活用法、④変化する時代の生産性と雇用、⑤インフレの要因・枠組みを挙げ、タスクフォースを立ち上げ年末までに答えを出すと宣言しました。バランスシートの縮小、つまりQT^{※3}は株式マーケットの脅威となりますが、当面は静観が想定されます。

問題は①のコミュニケーションです。従来のFRBはフォワードガイダンスに加え、記者会見や発言を通じ、どのような条件で政策が動くかという枠組みを市場に示してきました。これにより市場金利の安定化が図られていたわけです。FRBとマーケットのコミュニケーションが無くなった(乏しくなった)場合、短期的にタームプレミアム^{※4}が上昇し、金利の価格形成がボラタイルになることは間違いありません。しかし、FOMC後の記者会見での発言を見る限り、ウォーシュ氏はそうした金利変動を問題にしている様子はありません。手ごわい議長が誕生したと言えそうです。

~ワンポイント用語集~

- ※1 タカ派…各国の中央銀行の金融政策を決定する際、物価の安定を重視し金融引き締めの政策を支持する人のこと。反対に、景気刺激に積極的で金融緩和的な政策を支持する人のことをハト派と呼ぶ。
- ※2 つるはし銘柄…特定の産業やブームの中で、主役となる製品やサービスを直接提供するのではなく、その産業を支えるための道具やインフラを提供する企業の株式のこと。19世紀の米ゴールドラッシュ時代に、金鉱を掘る人よりもつるはしやスコップを売った人が安定して利益を得たという逸話が言葉の由来。
- ※3 QT…「Quantitative Tightening(量的引き締め)」の略称。中央銀行の金融政策において、中央銀行が市場から買い入れた金融資産のうち、満期が到来した分を再投資せず償還させることでバランスシートの縮小を図ること。
- ※4 タームプレミアム…短期債の代わりに長期債を保有することで投資家が求める追加の利回りのこと。一般的に長期債を保有することは、金利変動リスクなど様々なリスクを抱えることを意味するため、投資家はリスクに見合ったこうした追加的なリターン(プレミアム)を要求する。需給要因に左右される。

◆当資料は投資判断のご参考となる情報提供を目的としていちよしアセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。

◆当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。運用実績等の記載は過去の実績であり、将来の成果を示唆、保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。